

ヒヤリ・ハット調査
「降雨時の身の回りの危険」

平成25年6月

東京都生活文化局消費生活部

目 次

1. 調査目的.....	1
2. 調査概要.....	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査方法	1
(4) 調査内容	1
(5) 回答者の属性	1
3. 調査結果（ヒヤリ・ハットや危害経験）	2
(1) 全体的な傾向	2
(2) 降雨時における「傘」	5
(3) 降雨時以外（たたんだ状態）の「傘」	8
(4) 降雨時における「履物（足元）」＜男性の場合＞	10
(5) 降雨時における「履物（足元）」＜女性の場合＞	13
(6) レインコート・ポンチョ・帽子	17
(7) 自転車、電動アシスト自転車、原動機付き自転車、 ベビーカー、車椅子、杖の使用経験	20
(8) 自転車（電動アシスト自転車を除く）	21
(9) 電動アシスト自転車	25
(10) 原動機付自転車（50cc 以下バイク）	27
(11) ベビーカー	29
(12) 車椅子	32
(13) 杖	34
(14) その他	37
(15) 降雨時における「15歳未満の子供」のヒヤリ・ハット経験	38
(16) 降雨時に怖い、又は身の危険を感じる製品や場所	39
4. 調査結果（意識・要望）	40
(1) 傘をさしながらの自転車運転禁止について	40
(2) 降雨時の安全について国や自治体、企業等に望むこと	40
5. まとめ.....	43
6. 結果の活用.....	43

1. 調査目的

日常生活における「ヒヤリ・ハット」の経験は、どこへも情報提供されることなく多数埋もれていることから、東京都では危害危険情報を積極的に掘り起こすため、ヒヤリ・ハット調査を実施している。

「梅雨」「秋の長雨」「春雨」という言葉が日常的に使われるとおり、地域差はあっても雨の日は「特別な日」ではない。東京では一年のうち約 100 日は 1mm 以上の雨が降っている。

一方、「雨の日は危険が潜んでいる」とおぼろげながらわかっているにもかかわらず、その危険については大きな事故が起こらない限り顕在化することはない。

今回は、そのような降雨時のヒヤリ・ハットや危害経験について、15 歳以上の都民対象にインターネットアンケート調査を行い、雨の日にの身の回りで起こった経験や安全に対する意識・要望を掘り起こしてまとめた。

2. 調査概要

(1) 調査対象

東京都に居住する 15 歳以上の男女 3,000 人（インターネットアンケート登録モニター）

(2) 調査期間

平成 25 年 1 月 29 日～1 月 31 日

(3) 調査方法

インターネットによるアンケート形式で実施

(4) 調査内容

本調査では、日常生活における降雨時に使用する製品で、消費生活相談や事故情報のキーワードに見られた製品、また子供や高齢者に深く関わる製品から、傘、履物、レインコート・ポンチョ類、自転車（電動アシストなし、あり）、原動機付自転車、ベビーカー、車椅子、杖等の製品を中心に過去 5 年以内における降雨時のヒヤリ・ハットや危害経験の有無を聞いた。次に、ヒヤリ・ハットや危害の経験が「ある」と回答したのものについて、その程度と状況について選択式及び記述式の設問で詳しく聞いた。

(5) 回答者の属性

回答者は、10 歳代、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代以上の回答者をそれぞれ 500 人とした。

表 2-1 調査対象の分布

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上	男女別計	合計
男性	250	250	250	250	250	250	1,500	3,000
女性	250	250	250	250	250	250	1,500	

**ヒヤリ・ハット
危害** ケガはしなかったが、ヒヤリとしたりハットとした事例
ケガをした事例や発火・発煙・引火等重大な事故につながるおそれのある事例
「ケガ」には、やけどやかかぶれ、呼吸困難、具合が悪くなった等も含まれる。

3. 調査結果（ヒヤリ・ハットや危害経験）

(1) 全体的な傾向

ア 降雨時のヒヤリ・ハットや危害経験者

アンケートの回答者 3,000 人のうち、降雨時におけるヒヤリ・ハットや危害の経験者が 2,370 人(79.0%)いた。

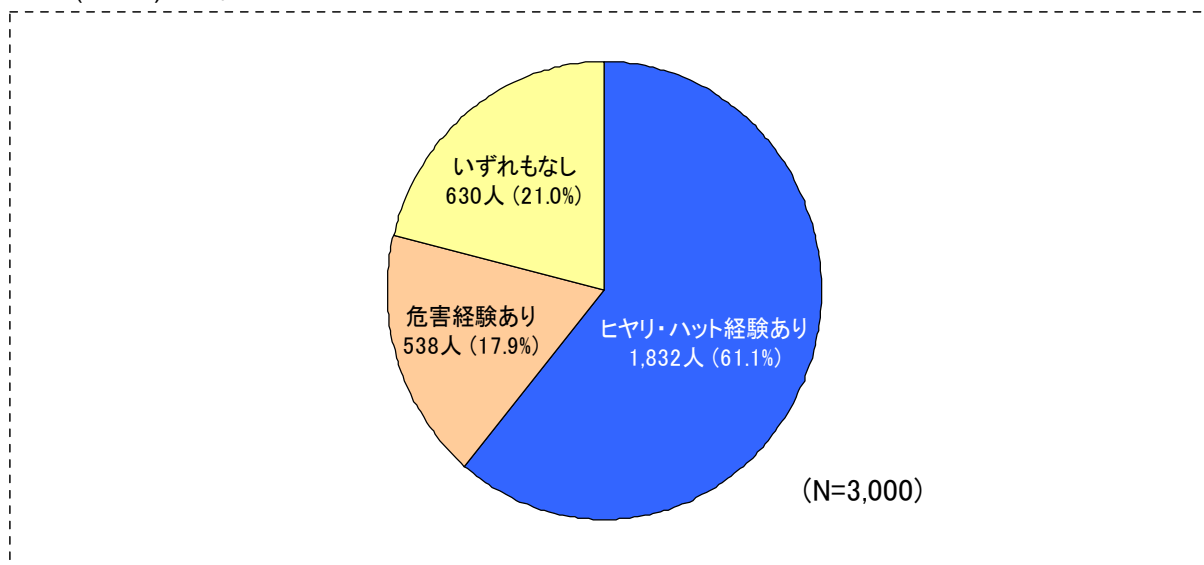


図 3-1-1 降雨時におけるヒヤリ・ハットや危害経験の有無

ヒヤリ・ハットや危害経験者 2,370 人を年代別の割合を見ると、最も多いのが 30 代、40 代の 425 人 (17.9%) だが、最も少ないのが 20 代の 344 人(14.5%)であることから、ヒヤリ・ハットや危害経験の年代による大きな特徴は見られない。その中でも 30 代、40 代が多いのは、天候に関わらず通勤等で毎日外出しなければならない条件下にある回答者が多いことによるものと思われる。

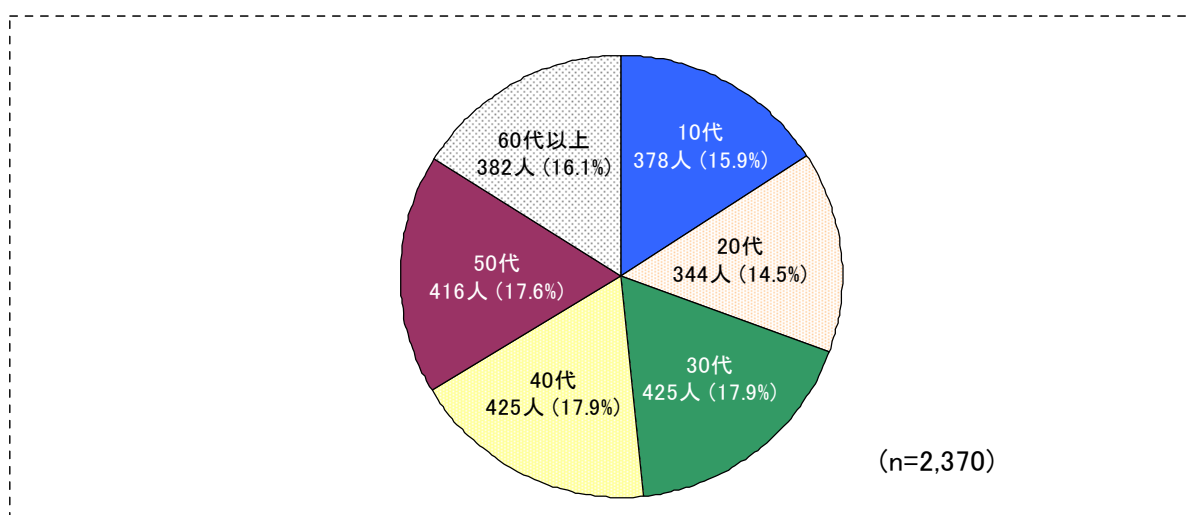


図 3-1-2 降雨時におけるヒヤリ・ハットや危害経験者の年代別内訳

※本報告書における注意事項

- ・グラフ上の「N=〇」(〇は数字)は、アンケート対象者の数を示す。
- ・グラフ上の「n=〇」(〇は数字)は、設問に対する有効回答件数を示す。
- ・比率(%)は、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。したがって、率の合計値が 100%にならない場合もある。

今回のアンケート調査で例示した製品別のヒヤリ・ハットや危害経験者を図 3-1-3 に示す。

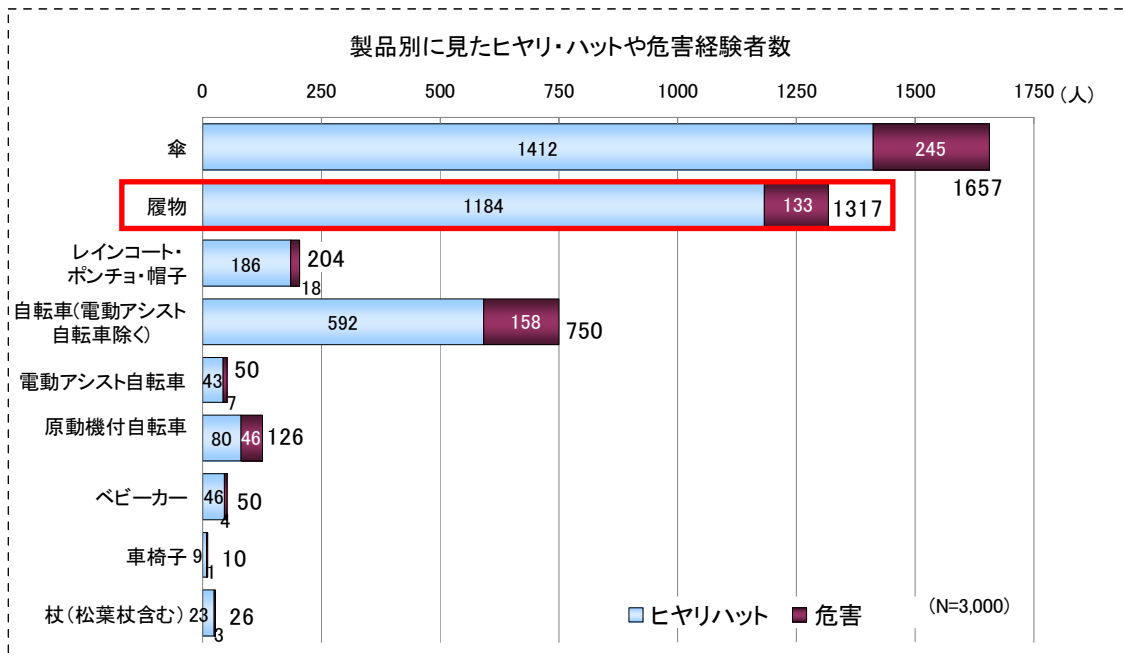


図 3-1-3 製品別に見たヒヤリ・ハットや危害経験

イ 降雨時における危害経験者の医療機関への受診・入院

製品別危害経験者の医療機関への受診・入院の有無について見ると、履物（足元）での経験者が最も多い。

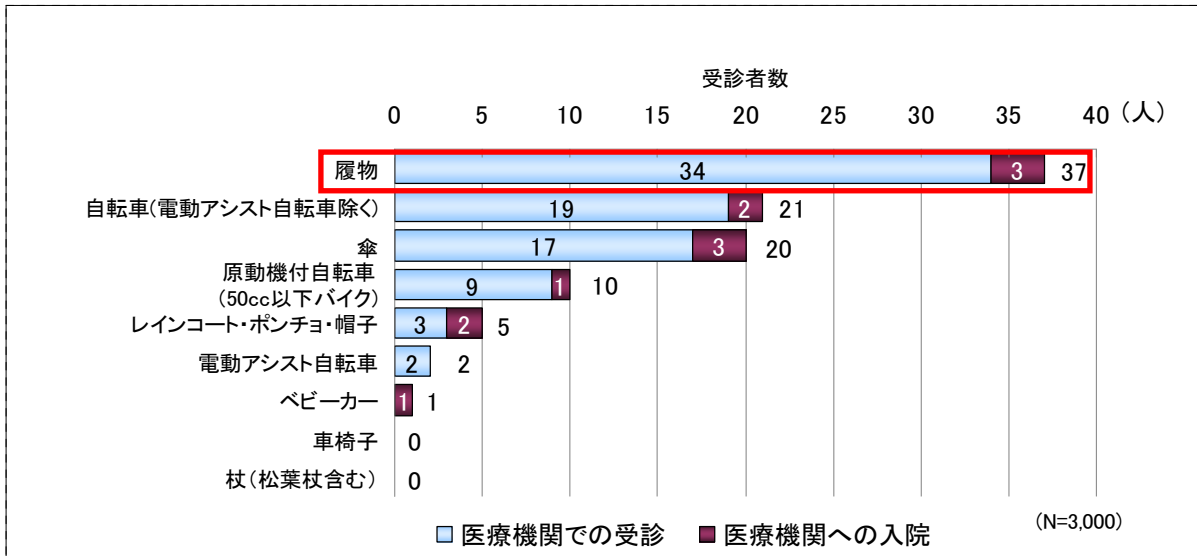


図 3-1-4 降雨時における危害経験者の医療機関への受診・入院者

(4) 降雨時における「履物(足元)」<男性の場合>

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験については、性別によって履物の種類が異なるため、男女別に調査を行った。

男性の場合、1,500人中626人が降雨時に「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験があった。経験の内容については、「滑って転んだ、転びそうになった」が523人と最も多く、次いで「つまずいて転んだ、転びそうになった」75人と続く。年代別では、40代:131人、50代:124人、30代:110人、60代以上:108人と大きな差異はないが、20代:85人、10代:68人と、10~20代がやや少ない。

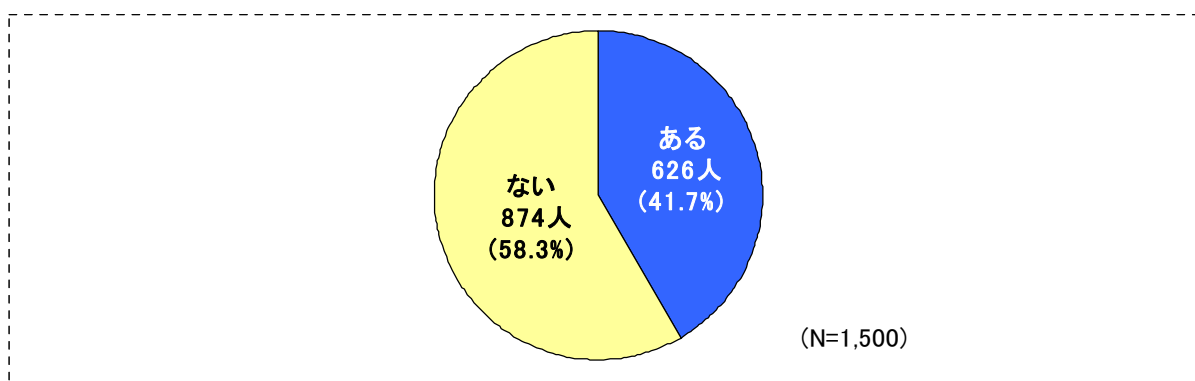


図 3-4-1 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験(男性)の有無

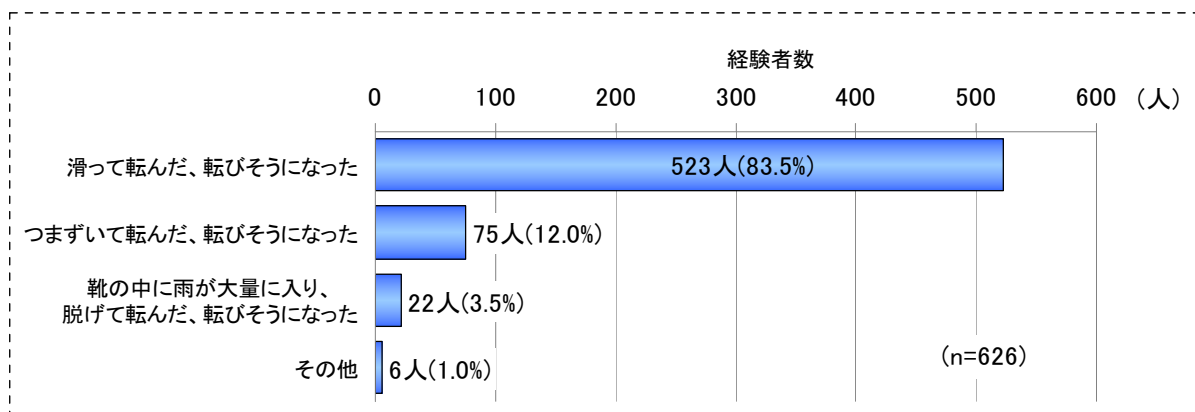


図 3-4-2 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験(男性)



イ ヒヤリ・ハットや危害経験をした際に履いていた靴の種類

降雨時に、滑ったり転んだり等、上記アでのヒヤリ・ハットや危害の経験をした際に履いていた靴の種類では、「革・合皮の靴」が 377 人と最も多く、次いで「運動靴」176 人、「サンダル（つっかけ）」30 人と続く。

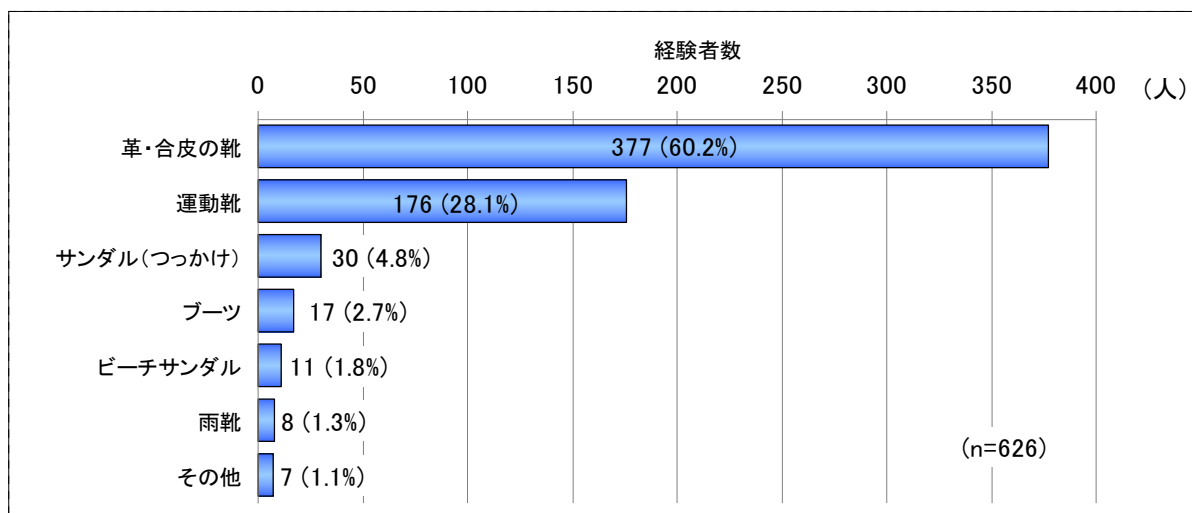


図 3-4-3 「履物(足元)」におけるヒヤリ・ハットや危害経験をした際の靴の種類(男性)

ウ ヒヤリ・ハットや危害の程度

男性における降雨時の「履物(足元)」での危害またはヒヤリ・ハットの程度については、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が 511 人と約 8 割を占めているが、47 人がケガをしており、うち 12 人が医療機関を受診し、1 人が入院に至っている。

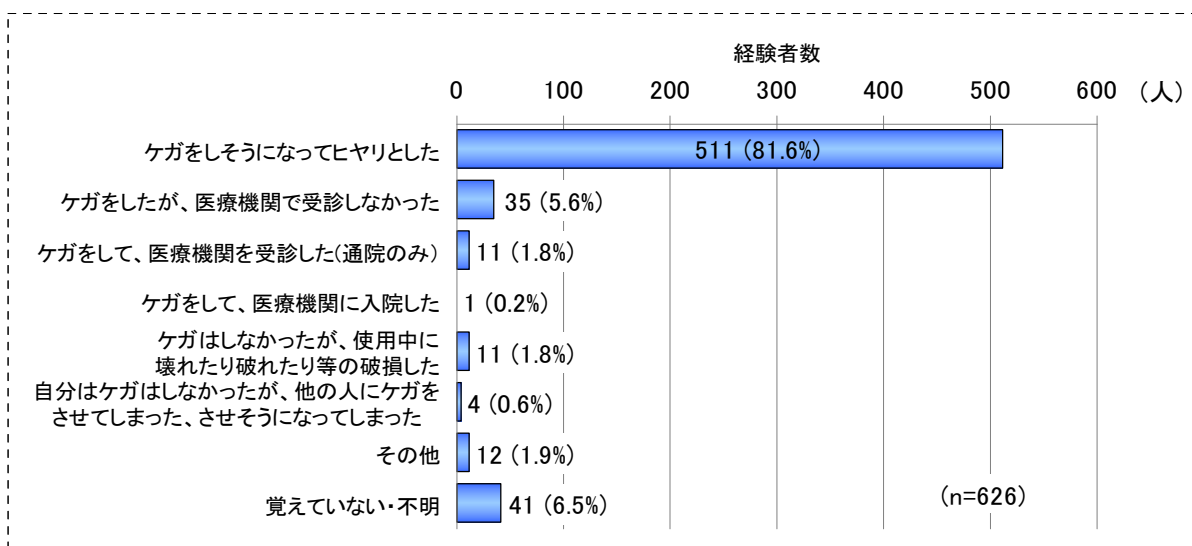


図 3-4-4 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験の程度(男性)

エ ヒヤリ・ハットや危害の経験をした場所

ヒヤリ・ハットや危害経験をした場所としては、「傾斜のない歩道」が 180 人と最も多く、次いで「傾斜のある歩道」119 人と、傾斜の有無にかかわらず、歩道での経験が約半数を占めている。傾斜の有無を合わせた「建物のエントランス」75 人、「駅の構内」69 人、屋内外の「階段」87 人となっている。傾斜の有無では「ない」309 人、「ある」177 人と、「ない」場所での経験の方が多し。また、「屋内の階段、エスカレーター」や「駅の構内」等、雨が直接当たらない場所での経験者が 138 人いた。

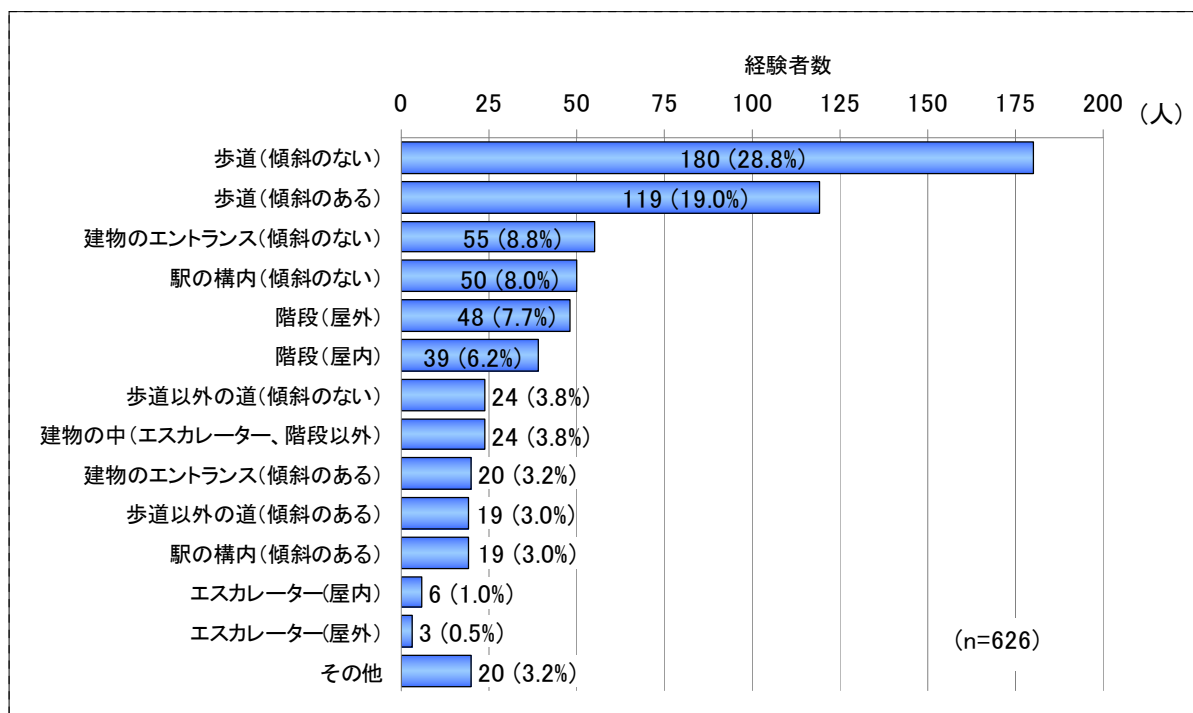


図 3-4-5 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験の場所(男性)

オ ヒヤリ・ハットや危害の具体的な内容

「滑った、転んだ」等、「履物(足元)」に関するヒヤリ・ハットの具体的な内容では、「マンホールの蓋で滑った」(24 人)、「タイル張りの道や施設等で滑った」(48 人)等が特徴的である。

表 3-4 降雨時における「履物(足元)」に関するヒヤリ・ハット経験の具体的な内容(男性)

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	雨の降っている日、電信柱を避けるとそこにはマンホールがあり、その上を行こうとして滑ってしまって手を強くついてしまった。	18歳	男性
2	割と新しい革靴で歩いているときに、枯れ葉の多い道で滑りそうになった。	19歳	男性
3	雨が降っていた、濡れた道。タイルの道で傾斜があり、普通のスニーカーのような靴で滑ってしまった。晴れている日はなんともない道だったので、濡れるとすべるようだ。	30歳	男性
4	小雨が降ってきたので小走りで建物に入ろうとしたら、タイルが滑る素材だったため転んで尻餅をついた	33歳	男性
5	雨のとき、マンションのエントランスで、つるつるのタイルに足を取られて滑った	42歳	男性
6	雨で下がぬれており、グリップの弱い革靴ですべり、ころびそうになった	53歳	男性
7	運動靴で歩道を歩いていたらずまずいて転びそうになった	64歳	男性
8	マンションの廊下で滑って頭をコンクリートの角にぶつけて三針縫う怪我をして救急車で運ばれた。	64歳	男性

(5) 降雨時における「履物(足元)」<女性の場合>

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

降雨時における「履物(足元)」について、女性1,500人中691人にヒヤリ・ハットや危害経験があった。内容については、「滑って転んだ、転びそうになった」が691人中591人と、8割以上を占めて最も多く、次いで、「つまずいて転んだ、転びそうになった」62人と続く。

年代別では、30代、40代がともに131人と最も多く、50代：118人、10代：110人、60代以上：108人と続き、最も少ない20代では93人だった。

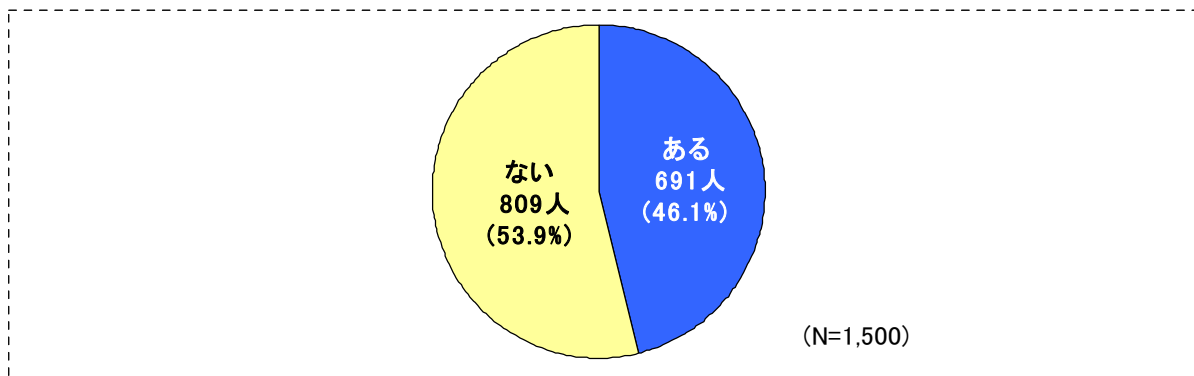


図 3-5-1 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験(女性)の有無

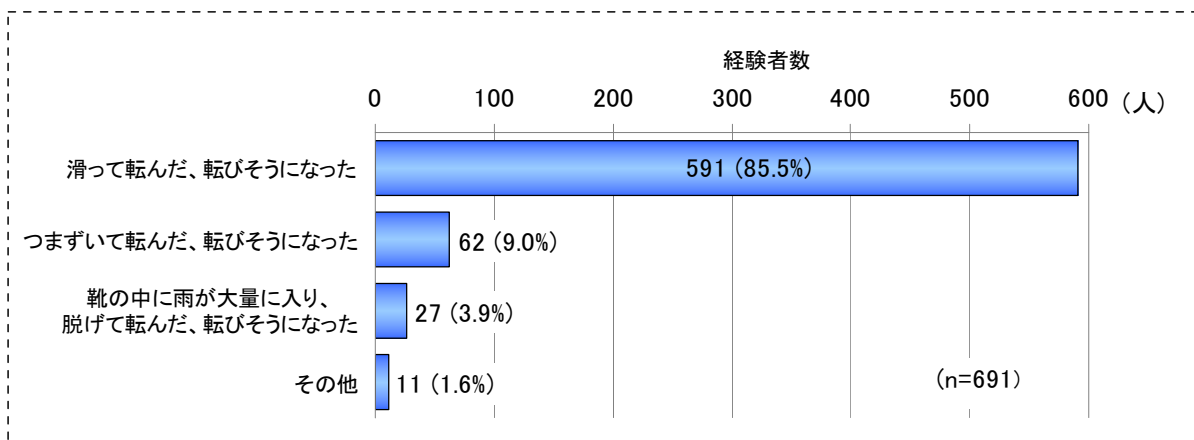


図 3-5-2 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験(女性)

イ ヒヤリ・ハットや危害経験をした際に履いていた製品

女性における降雨時のヒヤリ・ハットや危害の経験をした際に履いていた靴の種類については、「革・合皮の靴」が327人と最も多く、次いで「運動靴」111人、「ブーツ」110人とほぼ並んでいる。また、「雨靴」での経験者も29人いた。

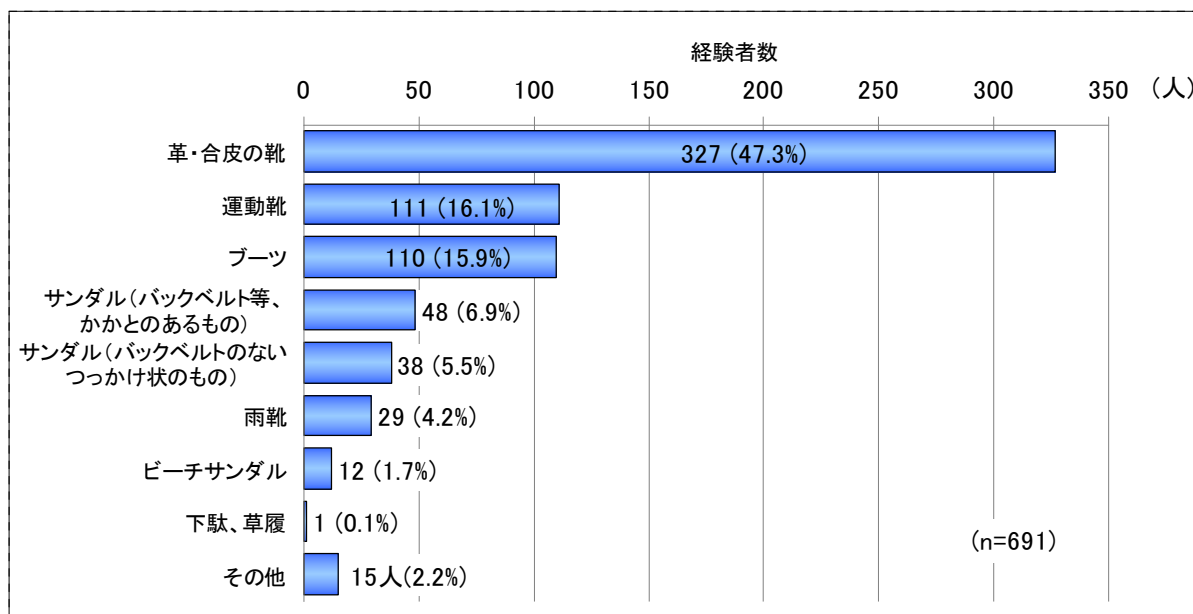


図 3-5-3 「履物(足元)」におけるヒヤリ・ハットや危害経験をした際の靴の種類(女性)

ウ ヒヤリ・ハットや危害の程度

女性における降雨時の「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害の程度として、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が555人と最も多く、約8割を占めているが、72人はケガをしており、そのうち25人は医療機関で受診している。

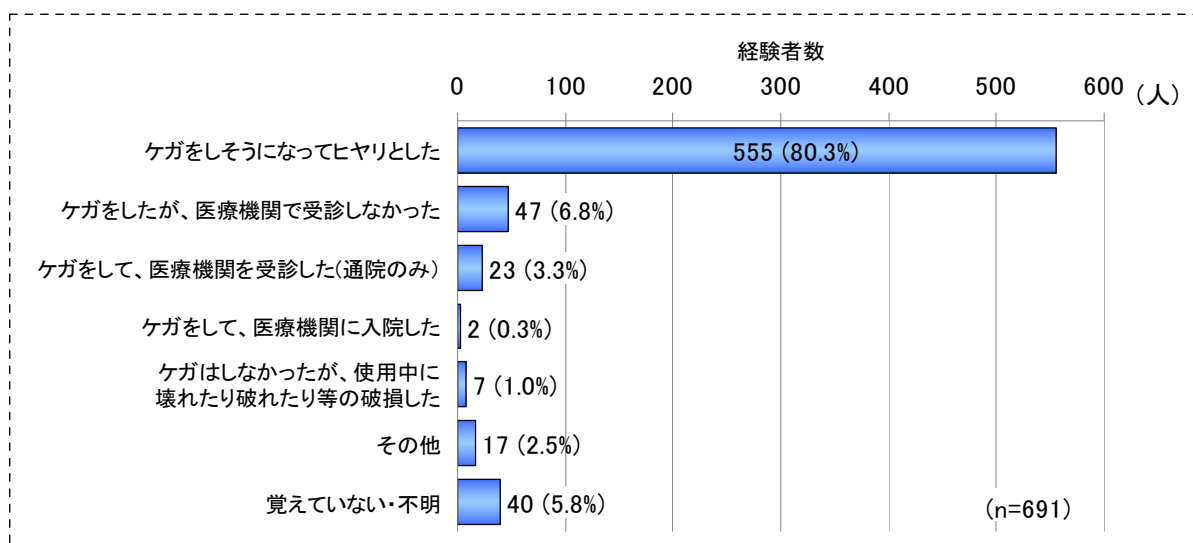


図 3-5-4 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験の程度(女性)

エ ヒヤリ・ハットや危害の経験をした場所

女性における降雨時の「履物（足元）」でのヒヤリ・ハットや危害経験をした場所として、「傾斜のない歩道」が 176 人、次いで「傾斜のある歩道」95 人となっており、両方をあわせた「歩道」が 271 人と、経験者全体の約 4 割を占めている。次いで傾斜の有無を合わせた「建物のエントランス」101 人、「駅の構内」87 人、屋内外の「階段」91 人となっている。傾斜の有無では「ない」場所での経験が多い。また、「屋内の階段、エスカレーター」や「駅の構内」等、直接雨のあたらない場所での経験者も 180 人と、経験者の約 4 分の 1 を占めた。

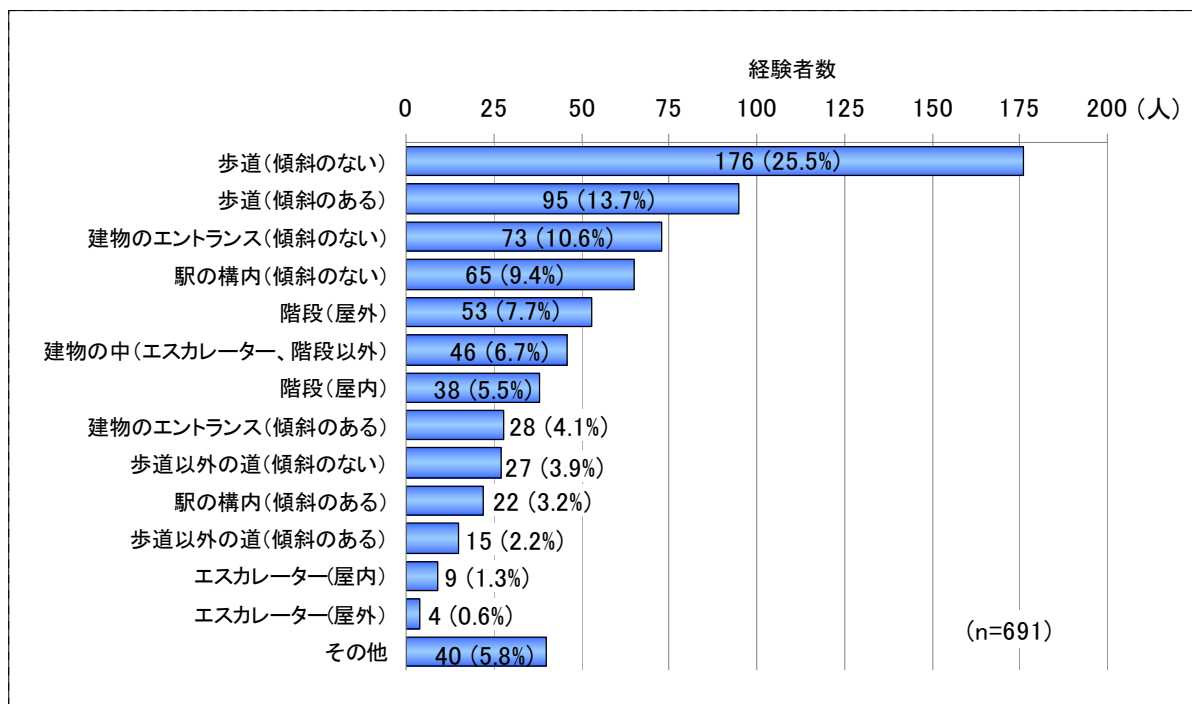


図 3-5-5 降雨時における「履物(足元)」でのヒヤリ・ハットや危害経験の場所(女性)

オ ヒヤリ・ハットや危害の具体的な内容

女性における降雨時の「履物（足元）」でのヒヤリ・ハットや危害経験の具体的な内容については、「道路上の原因（横断歩道の白線、点字ブロック、工事現場の鉄板）」という場所の特徴が約4割あった。次いで、「ヒールの高い靴(階段を下りる時、滑りやすい床でバランスを崩しやすい時など)」という靴での特徴が約2割あった。

表 3-5 降雨時における「履物（足元）」に関するヒヤリ・ハット経験の具体的な内容(女性)

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	大雨が降っているときヒールのある靴で友達と会っていて、帰るときに足元に気をつけることができなくてつまずいてしまった。	16歳	女性
2	ハイヒールのパンプスをはいていたのでバランスを崩して足首をねんざした	18歳	女性
3	雨でぬれた路上をパンプスで歩いていたところ、滑ってひざをついた	19歳	女性
4	大雨時、歩道と車道の境目の斜めになっている部分で足を滑らせ、車道に飛び込んでしまった。危機一髪のところまで歩道に戻れたが危なかった。	19歳	女性
5	マンションの通路が湿気でつるつると滑りやすい状態になっており、ヒールのある靴を履いていたので滑った。	28歳	女性
6	防水のスニーカーの裏がすべりやすく、たまにツルツところびそうになる	33歳	女性
7	どの靴でも滑り止めに靴修理屋さんにつけてもらうので、あらゆる靴であります。場所も歩道や、駅の所、バスの中、目の見えない人用の黄色い線、雨の時は普通の滑り止めでは滑り易くなるものが沢山あります。	36歳	女性
8	長ぐつをはいていましたが エスカレーターも濡れていて溝の縦方向につると滑りました。幸いすぐに手すりをつかんだので転ばないで済みました	40歳	女性
9	雨の時、バックストラップのハイヒールを履いていて、かかとの方から雨が入って濡れて、靴の中で足が滑って、足首をひねり、バランスを崩した。転ぶことはなかったが、とてもびっくりした。	48歳	女性
10	駅ホームの視覚障害者用ブロックが雨でぬれていて、電車に乗ろうと走ったとき滑ってスライディングの様な形で転び、足腰鞭打ち、さらに顔をすりむいて、翌日全身あざで整形外科に行き、3カ月通院した	50歳	女性
11	雨の降った夕方室内の階段で濡れていた。急いで帰ろうとしていたのでエレベーターを待たず階段をパンプスでトントンと降りていたらすべって階段から落ちた。床に突っ伏したまま起き上がれずいたら、エレベーターから降りてきた社員に発見され、オンパで目の前の病院に直行。足首が折れていた。	54歳	女性
12	バスから降りる時にバスのステップの所が雨でぬれていたの滑ってしまい、そのまま路上に尻もちをついてしまいました。	63歳	女性
13	雨模様の日に、帰宅途中の歩道橋を渡った時。下りの階段を下り始めたその時、革底のローヒールが滑り、アツと言うまもなく転びそうになった。運良く直ぐ横の手すりにならなかつたので、足首を少し痛めただけです。	64歳	女性
14	雨天だったので、鉄製のマンホール(坂道にある)の上を歩いた時、ズルツと滑ってころびそうになった	65歳	女性
15	陸橋の階段を下りていた時、濡れたステップを踏み外して落ちそうになり、手すりにつかまり踏みとどまったが、とても恐怖を感じた。	65歳	女性
16	水が少したまり気味な道で、裏がすり減ってきたウォーキングシューズを履いていて、滑りそうになった。	67歳	女性

(12)車椅子

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

「車椅子」の使用経験者 73 人中 10 人に、降雨時のヒヤリ・ハットや危害の経験があった。

(図 3-12-1)

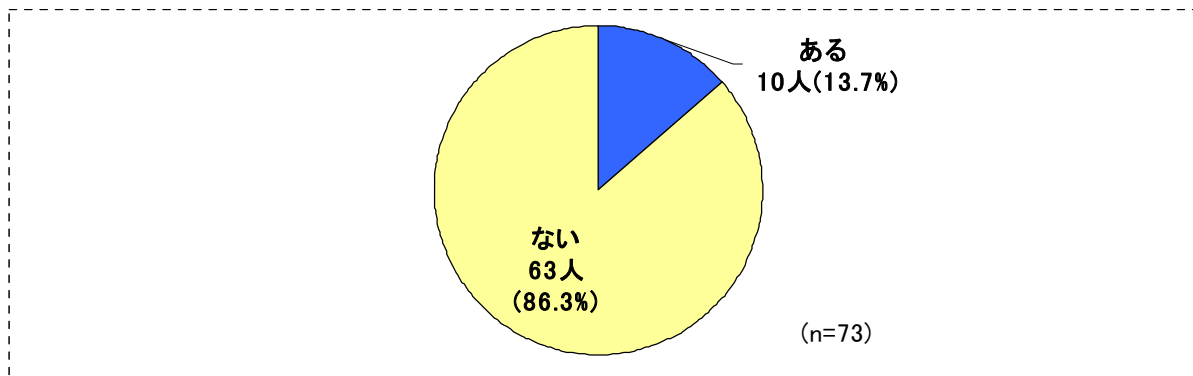


図 3-12-1 降雨時における「車椅子」でのヒヤリ・ハットや危害経験の有無

ヒヤリ・ハット経験者 10 人の内容は表 3-12 の通りである。

表 3-12 降雨時の「車椅子」におけるヒヤリ・ハット経験の具体的な内容

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	滑った	18歳	女性
2	スリップして転びそうになった	19歳	男性
3	歩道を車椅子に乗って走っていたら対向の自転車と接触した	28歳	男性
4	病院内のスロープを下っているとき、乗っている人が重たかったのと、傾斜が結構あったため、思った以上に加速してしまい、止めるのに慌ててしまった。	32歳	女性
5	傘をさして車いすを操作するのは危険なので、雨の日は車いすの使用はせず外出を控えました。	53歳	女性
6	押して横道に曲がろうとしたとき、車がきてぶつかりそうになった	54歳	女性
7	モノレールに乗車しようとして車体とホームの間に挟まった。	61歳	女性
8	車いすを押していて、対抗から車がきたので、ワキへ避けようといいたら、坂になっていて、車いすのハンドルがきかず、いきなり道路際にひっぱられた。	61歳	女性
9	最初から雨の時は原則外出しないが、途中で雨になった時は乗っている人も、押している自分も、フード付きのレインコートを着るので、いつもと勝手が違い小回りがしにくく、人や物にぶつかりそうになります。	64歳	女性
10	スリップして止まらなかった	65歳	女性



イ ヒヤリ・ハットや危害の程度

降雨時の「車椅子」での危害や危害の程度として、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が10中6人と最も多く、1人がケガをしている。

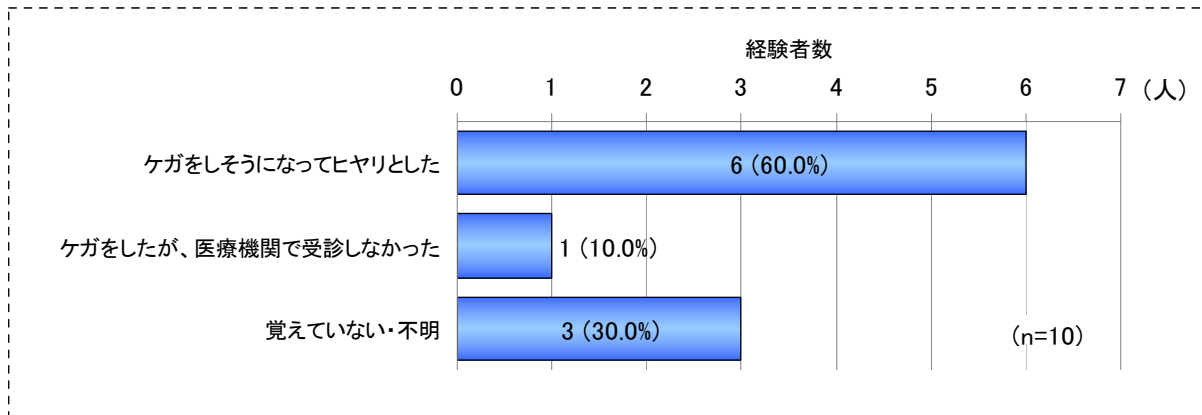


図 3-12-2 降雨時における「車椅子」でのヒヤリ・ハットや危害の程度

ウ ヒヤリ・ハットや危害経験の場所

降雨時の「車椅子」でのヒヤリ・ハットや危害の経験をした場所で最も多いのは、「傾斜のない歩道」が4人と最も多く、次いで「傾斜のある歩道」が2人、合わせて6人が歩道でヒヤリ・ハット経験をしている。他には「駅の構内」2人、「歩道以外の道」「建物のエントランス」それぞれ1人と続いている。

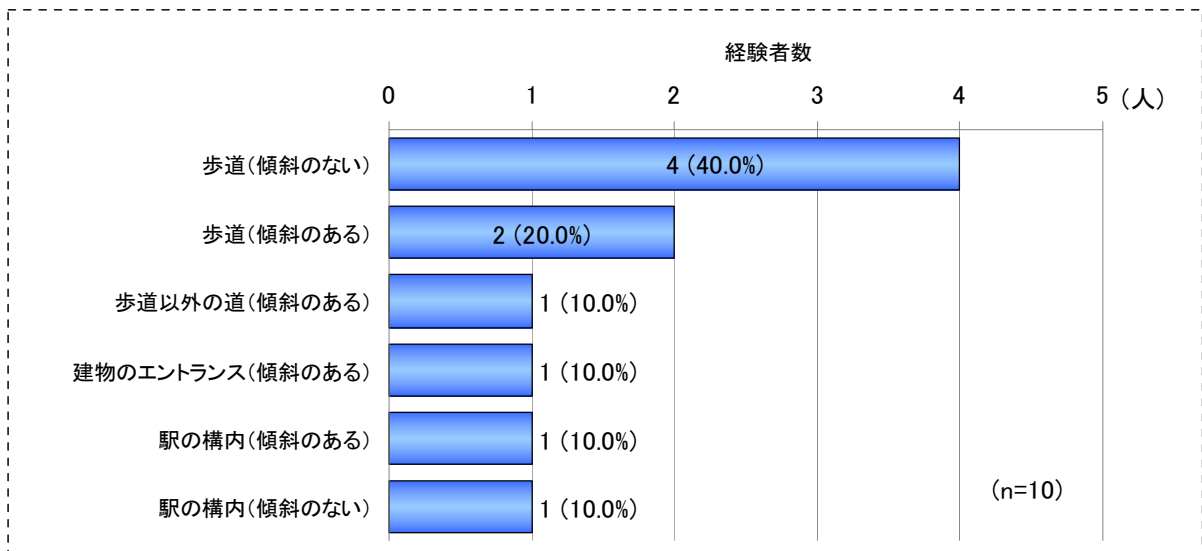


図 3-12-3 降雨時における「車椅子」でのヒヤリ・ハットや危害経験の場所

(13)杖

ア ヒヤリ・ハットや危害経験

「杖」を使用している 151 人中 26 人に、降雨時のヒヤリ・ハットや危害の経験があった。そのほとんどが「杖が滑って転んだ(転びそうになった)」という回答である。

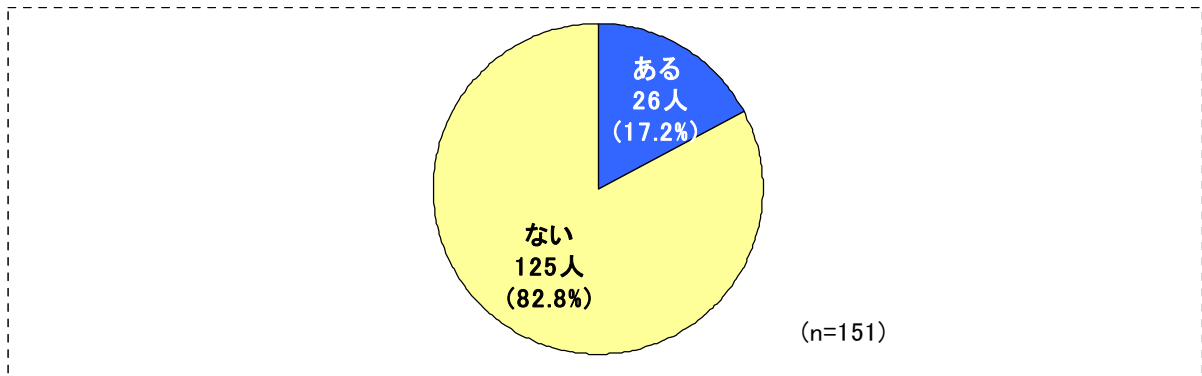


図 3-13-1 降雨時における「杖」でのヒヤリ・ハットや危害経験の有無

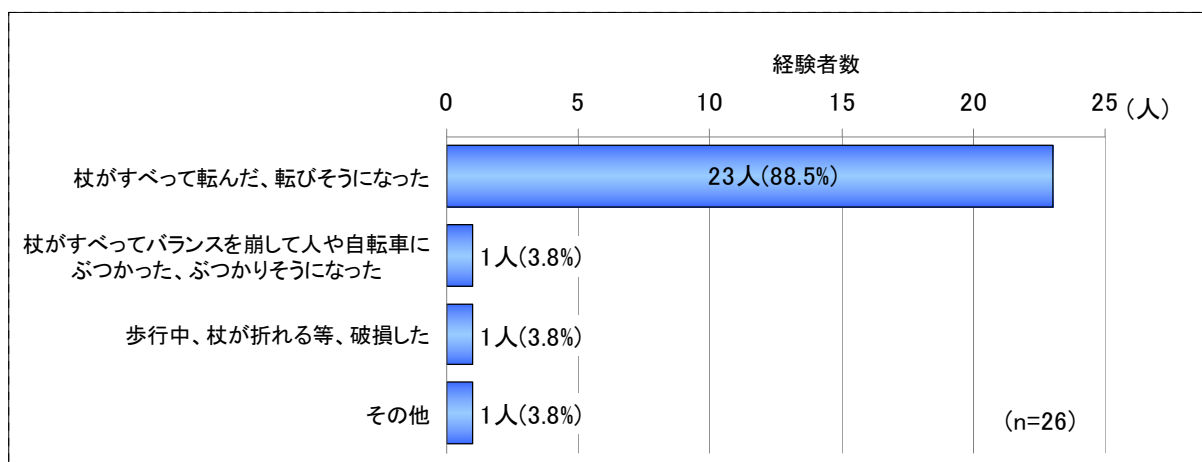


図 3-13-2 降雨時における「杖」でのヒヤリ・ハットや危害経験



イ ヒヤリ・ハットや危害の程度

降雨時の「杖」を使用しての危ヒヤリ・ハットや危害の程度としては、「ケガをしそうになってヒヤリとした」が26人中21人と最も多いが、ケガをした人が2人いた。

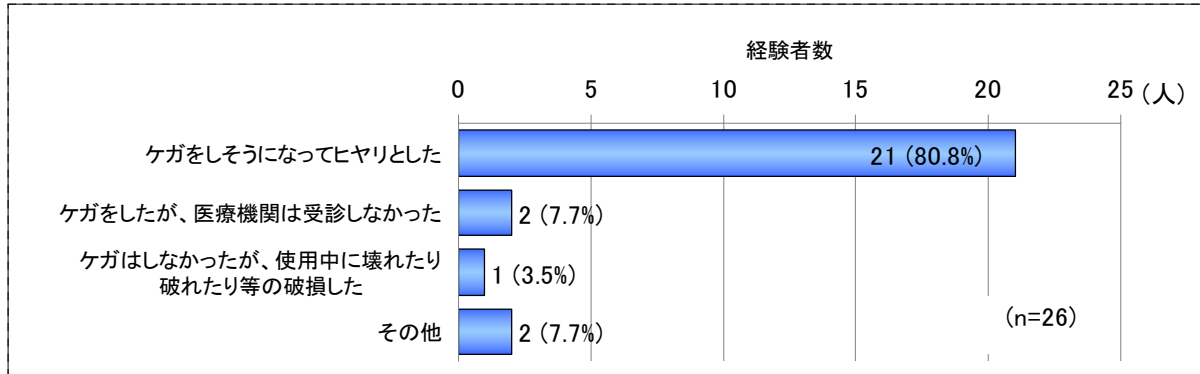


図 3-13-3 降雨時における「杖」でのヒヤリ・ハットや危害の程度

ウ ヒヤリ・ハットや危害経験の場所

降雨時の「杖」を使用中におけるヒヤリ・ハットや危害経験の場所は、歩道等の「道」での経験が13人と多いが、「建物のエントランス」や「駅の構内」等、例示した場所にまんべんなく経験者がいた。

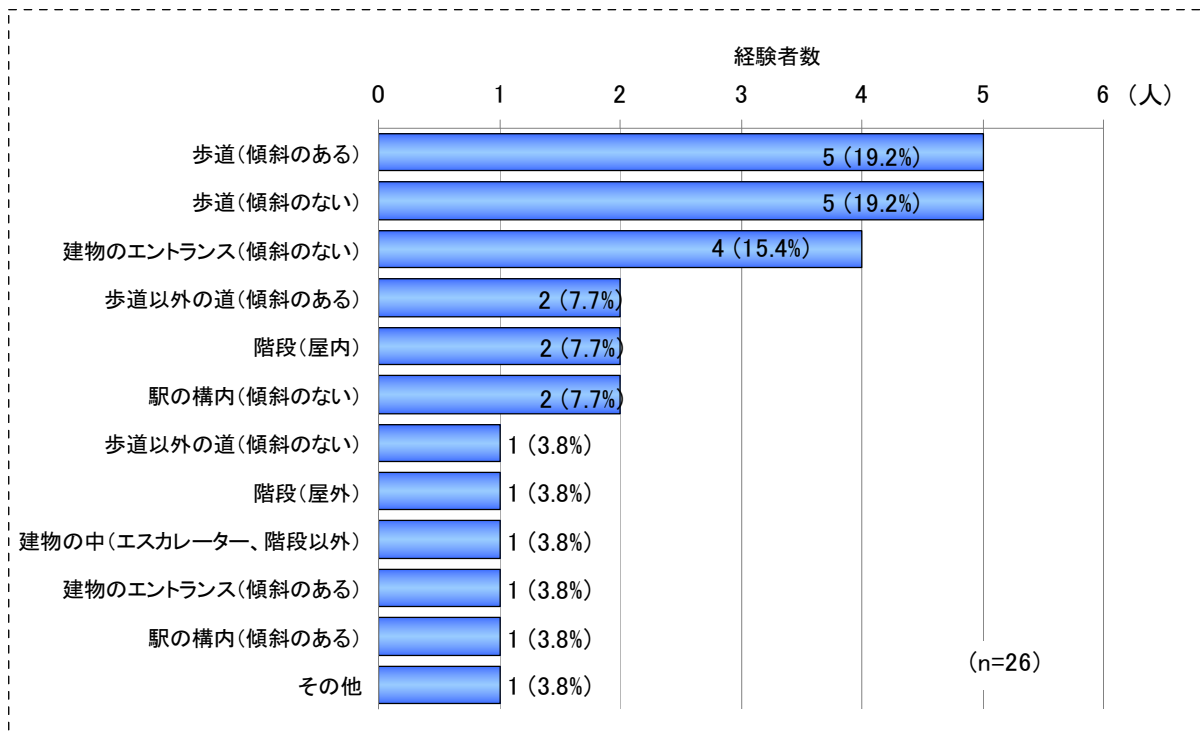


図 3-13-4 降雨時における「杖」でのヒヤリ・ハットや危害経験の場所

エ ヒヤリ・ハットや危害の具体的な内容

降雨時において杖を使用したときのヒヤリ・ハットや危害経験では、高齢者等の歩行補助の使用による経験を多く想定していたが、具体的内容から「松葉杖」による経験者が26人中10人いたことが読み取れた。

表 3-13 降雨時の「杖」におけるヒヤリ・ハット経験の具体的な内容

No.	具体的な事例	年齢	性別
1	松葉杖が滑ってけがをしていた足が地面についた	15歳	男性
2	足を傷めて松葉杖を使っていたときに、土足で利用する階段が雨で濡れていてすべり、転んだ。	19歳	女性
3	マンホールの上を松葉づえで歩いた際、滑って杖がななめになり転びそうになった	29歳	女性
4	雨の降っている日に、杖を持ち駅の構内を歩いていたら杖の先が滑って転倒した。ケガはしなかった。	43歳	女性
5	けがで松葉杖を使っている、雨の日、勤務先の建物の入り口に入ったとたん、床が濡れているところで杖がすべってころびそうになった。	52歳	女性
6	骨折で杖を使っていたが、杖の先のゴムと床材がビニールシート様のものが滑って危うく転びそうになった。	57歳	女性
7	歩道と私有地(店舗)とを分けるチェーン付きのポールを立てる穴に(営業中なのでポールは立っていないか所だけ蓋がされていなかった。雨の為水がたまり蓋がされているように見えた。)杖が入ってしまい転びそうになったが慌てて杖を引き抜き身体を支えたので転ばずに済んだ。	57歳	女性
8	散歩で杖を使って歩いていたときです。車道と歩道が分かれていない住宅街の道で、チリンチリンの自転車の音に振り向いたら、杖が後ろから来た自転車に当たり、傷つけられてしまいました。自転車は、さっさと行ってしまいましたが。	64歳	女性
9	杖について滑って転んだことがたびたびある	64歳	男性
10	小ぬか雨でビルの前の大理石の歩道で杖が滑り転びそうになった	75歳	男性

(16) 降雨時に怖い、又は身の危険を感じる製品や場所

「降雨時に怖い、又は身の危険を感じる製品や場所」について、自由記述にて質問した。回答を大まかに分類した結果、「道路(マンホール・白線上等の滑りやすい材質のもの)」が 381 人と最も多く、次いで、「階段・坂道・段差・歩道橋・エスカレーター」等の昇降に関する場所が 311 人、「傘(持ち方・器具部分・使用方法等)」276 人と続く。

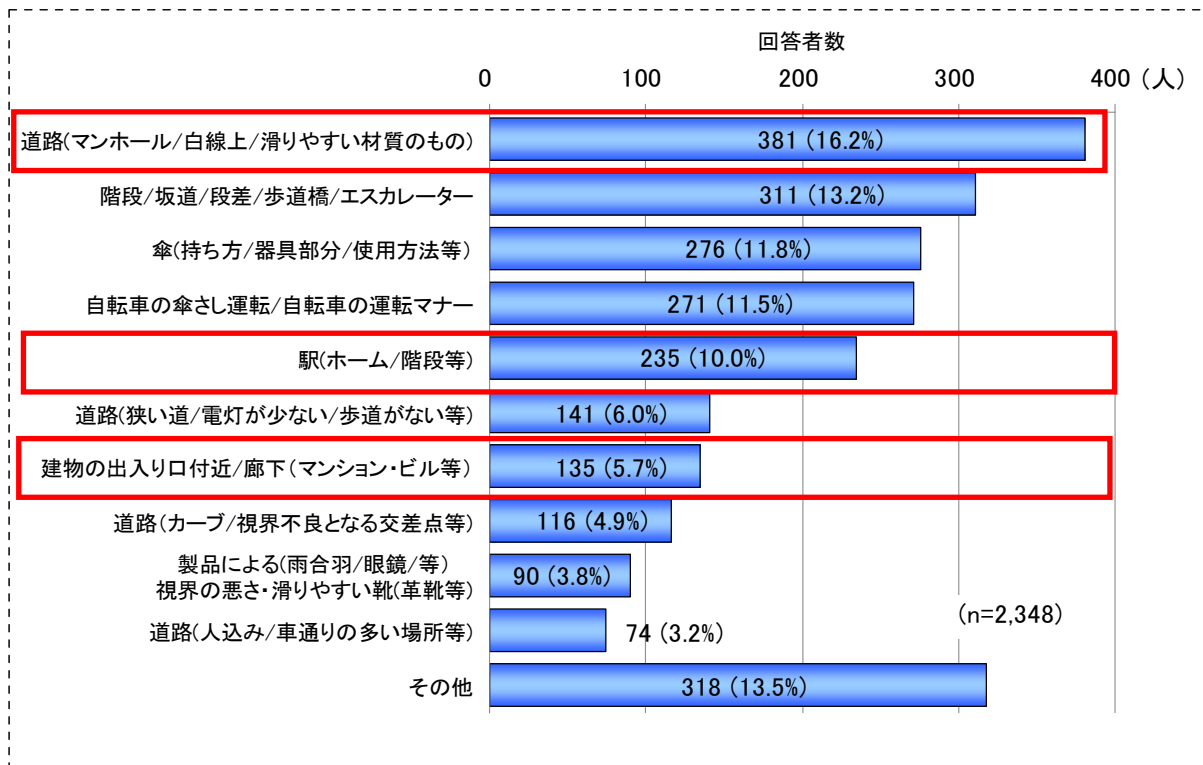


図 3-16 降雨時に怖い、又は身の危険を感じる製品や場所

表 4-2-1 降雨時の安全について国や自治体、企業等に望むこと(1)

項目	No.	具体的な要望	年齢	性別
道・床	1	歩道・車道・自転車道路の整備。	66歳	女性
	2	自転車専用道を作ってほしい	18歳	男性
	3	車道・歩道・自転車道をしっかりとわけ整える。	47歳	女性
	4	歩道や通路の滑り止めなどの設置	60歳	女性
	5	マンホールに滑り止めをつけてほしい。	31歳	女性
	6	道路や駅構内等の地面や床を塗れても滑らない素材にしてほしい。	16歳	女性
	7	道路等の整備や公共の建物では滑りにくい床なども考慮して欲しいと思います。	66歳	女性
	8	滑る素材の床や道路はつくらないでください。	19歳	男性
	9	水溜りができたりすると更に危険だと思うので、水はけの良い環境にしてほしい。	18歳	女性
	10	滑りにくい材質のエントランスや道路をお願いします。	55歳	女性
	11	階段などをツルツルした床にしないで欲しい	18歳	女性
	12	公共スペース(たとえば駅など)に敷いてあるタイルを、水に濡れても滑りにくいタイルにしてほしい。	63歳	女性
	13	エントランスホールの床を大理石や御影石にする場合は、表面がぬれた場合を考えて施工してほしい。	53歳	女性
屋根	14	通りにアーケードを増やしかささをささなくても歩けるようにする	28歳	男性
	15	人通りの多い道にはアーケードをつける	19歳	女性
	16	都心の駅の近くはなるべく傘を差さなくてもJRから私鉄に乗り換えられるような雨よけフードがほしい。	62歳	男性
階段	17	階段をただのタイルではなく滑り止めを充実させる。	18歳	男性
	18	公共施設の階段等に手摺や滑り止めを付けてほしい。	65歳	女性
	19	駅の階段のまんなかの仕切りをなくした鉄道会社が多いように感じますが、手すり代わりになるものがなくなってこわいです。すべりやすくなっているので、手すりなどを充実してほしいです。	60歳	女性
自転車マナー	20	免許の要らない自転車についてのマナーを周知させてもらえる様に何らかの公告をして欲しい	63歳	女性
	21	雨の日の自転車のマナーを徹底して欲しい。	63歳	女性
	22	自転車の傘差し運転を取り締まる	28歳	男性
	23	傘をさしての自転車走行の徹底した指導と取り締まり。	52歳	女性
降雨時に自転車運転する人のために	24	雨に濡れないような自転車に乗れるものが欲しい。自転車の傘差し運転がダメになってカッパを着るけどカッパは顔にそのまま雨が降り注いでくるので眼があけられなく前が見れないため余計に危ない。傘の方が安全なんじゃないのかとも思う。雨の日に自転車に乗るなどというのはバスも駅からも遠いような学校に通うために使用しているのでどうしても不可能になる。その一方で傘は幅を取るし歩行者にとっても迷惑だっという事も分かるので顔に雨が当たらないような工夫のある自転車が欲しい。	21歳	女性
	25	自転車でレインコートだけで雨を防げというのは結構無理な話で、昔の自動三輪みたいな安定していて、屋根のある軽車両を復活させて欲しい。私は乗らないけれど、雨が強い時、自転車の人は絶対にビショビショになるだろうし、それで、仕事や勉強をしるといのは結構厳しいし、濡れたく無いからスピードを出したりもするだろうし、危ないと思う。	36歳	女性
	26	傘をさして自転車に乗ってはいけない、というのは簡単。今までよかったものをダメだというなら、具体案、妥協案を示してほしい。	27歳	男性
	27	雨が降って風が吹いても、レインコートのフードが飛ばない、前が見える物が開発されるとよい。	67歳	女性
	28	合羽のフードをかぶると後ろを振り返れないので、何か工夫出来ればよい。風で飛ばないレインハット。	50歳	女性
	29	傘もフードも降雨時に使用するものは 一部を透明にするなどの工夫	60歳	女性
	30	被っても音が聞きやすいフード付きレインコート。雨天時にの走行速度の制限。	60歳	女性
	31	ファッションブルなレインコートを販売する。また、若者がそのレインコートを利用したいと思うような宣伝をする。	23歳	男性
	32	全てのスーパー、医療機関にレインコートの置き場所を設置することを義務付けて。傘をさして自転車に乗るなどというなら、上記の事も一緒に考えるべきだ。	62歳	女性
	33	合羽用の置き場所を作ってほしい	17歳	男性
	34	若い人達や急いでいる人はレインコートを着たがらない。理由としては、格好が悪いという事の他に、駅等での着替えの場所とそれによる時間のロスを気にかけるとの話聞いた。雨の時に着脱できるような場所とビニール袋のようなものを用意してあげると良いかと思う。	60歳	女性
	35	雨用のかっこいいゴーグルが欲しい。自転車用のカッパや、取り付け簡単な屋根を作って欲しい。	32歳	女性

5. まとめ

降雨時におけるヒヤリ・ハット経験は、傘と自転車、履物と歩道・床等、複合的な要因によって起きており、製品の構造や欠陥、また、場所等の問題が特定できない事例が多い。雨と強風等の気候上の悪条件が重なるという状況も多数見られた。今回の調査では、ケガ等のないヒヤリ・ハット経験で済んでいる事例がほとんどだが、96人が医療機関を受診するほどのケガを負っていた。

アンケートにおける自由記述の中には、降雨時のヒヤリ・ハット経験について、「個人の問題」「しかたない」という記述も見られた。1年のうち約100日が1mm以上の雨の日である東京の降雨時におけるヒヤリ・ハット経験は、「身の危険の経験」であると同時に、何度も繰り返される「日常的な不快な経験」である部分も大きい。マナーに関する教育や呼びかけも含めた改善や工夫が行われ、少しでも快適に雨の日を過ごせることがヒヤリ・ハットの防止にも繋がることと思われる。

自転車の傘差し運転が禁止されていることを認識している人は、アンケートでは8割を超えていた。しかし、ヒヤリ・ハット経験では傘差し運転が要因となるものが多く見られた。傘に替わる快適性、安全性、携行性が工夫された自転車運転時に使用できる雨具の製品開発、また「大型店舗や公共的な場所でレインコート・カッパ置き場が欲しい」という要望に見られるような、自転車の傘差し運転をしなくてもいい環境の工夫が消費者から望まれていることが見て取れた。

また、一時しのぎに用いられるような比較的安価な傘の破損や投棄によるヒヤリ・ハット経験も見られた。これらは突然の降雨時には便利な製品だが、壊れやすく、また、ポイ捨てされると危険なゴミになってしまうという現実がうかがえた。

6. 結果の活用

- (1) ヒヤリ・ハットや危害の事例及び注意のポイントをまとめ、ヒヤリ・ハットレポート No.7「降雨時の身の回りの危険～雨の日の事故防止ガイド～」を作成、配布し、都民へ情報提供を行い、事故の未然防止を図る。
- (2) 収集したヒヤリ・ハットや危害の事例を商品の安全性に関する調査を実施する際に活用する。
- (3) 国、自治体及び事業者団体等へ調査結果を情報提供する。